

令和6年度事業報告

定款第39条（事業報告及び決算）に基づき、
本会の令和6年度の実業報告を行うものである。

1. 会員現況

2. 組織及び業務の分担概要

3. 会議等の概要

(1) 総会、(2) 理事会、(3) 顧問・評議員会、(4) 各種委員会

4. 運営・広報事業の概要

5. 国際関係事業の概要

6. 催物事業の概要

7. 調査研究事業の概要

8. 設立50周年記念事業の実施概要

9. 表彰（功績賞、功労賞）の選考概要

10. 研究助成（研究助成部門、研究奨励部門）の選考概要

令和 6 年度事業報告

令和 6 年度は、会員のニーズ等に基づき、トンネル技術者にとって必要と考えられる各種の事業を積極的に実施した。

運営・広報事業では、本会の活動指針である「JTA ビジョン」を踏まえ、関連諸事業の実施等に努めた。会員のニーズを踏まえ、デジタル技術情報の提供に関する検討を進めるとともに、メールマガジン等によりイベント情報等の積極的な発信に努めた。また、委員会活動成果としての図書を広く頒布した。

国際関係事業では、ITA 活動等への参加などを通じて、トンネル技術に関する各国の情報収集、わが国からの情報発信及び国際協力に努めた。

催物事業では、当面する技術課題を踏まえた各種催物を企画し、トンネル関係者の実務上有益な知識の向上を図った。

設立 50 周年記念事業では、「社会を支え、未来へつなぐトンネル・地下空間」をメインテーマとして、記念事業を企画し、実施計画を策定した。

調査研究事業では、技術委員会の下で、トンネルや地下空間の建設および維持管理に関する当面の課題や会員からのニーズに応えるよう実施した。受託業務においては、学識経験者からなる委員会において審議し、委託者の期待に応えるよう実施した。

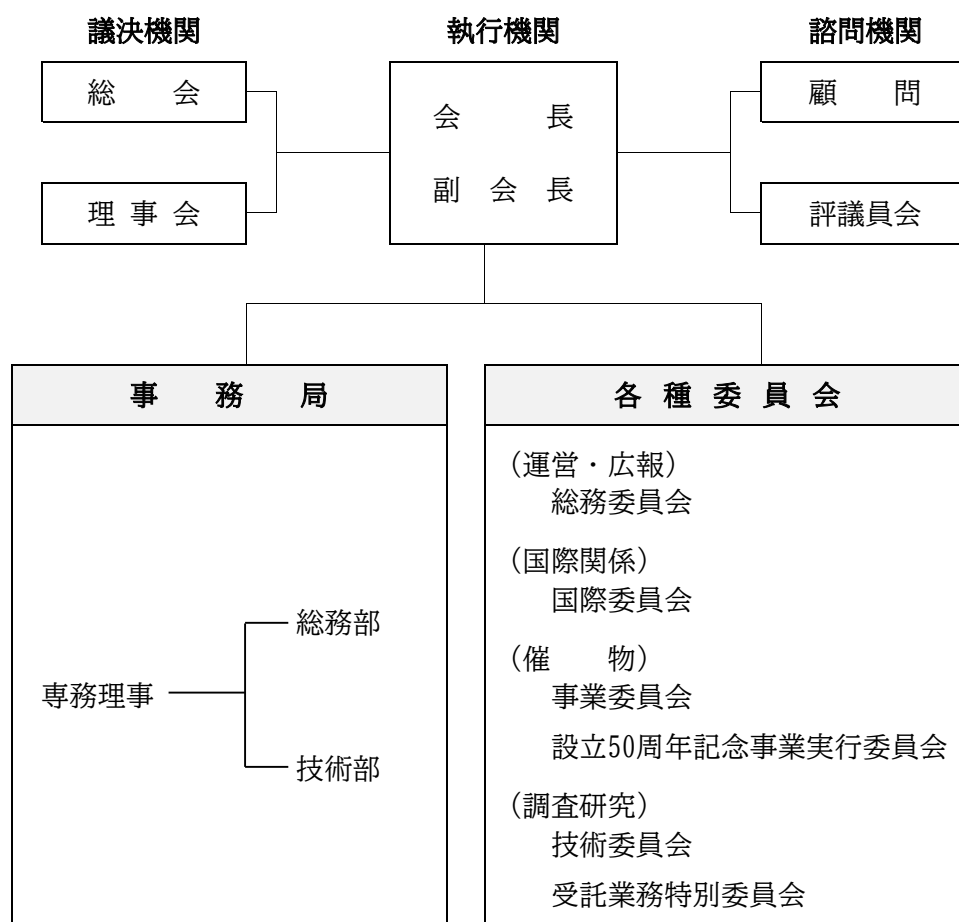
1. 会員現況

1985 年（昭和 60 年）以降 2025 年（令和 7 年）3 月までの会員現況の推移は、下表のとおりである。

会員数（名）										
年 月 会員種別	1985.3	1995.3	2005.3	2015.3	2020.3	2023.3	2024.3	増	減	2025.3
正会員	2,098	1,901	2,054	1,286	1,236	1,223	1,195	84	▲99	1,180
団体会員	228	282	359	202	203	203	203	0	▲2	201
特級	3	3	3	1	1	1	1	0	0	1
特 A 級	-	28	24	23	23	23	23	0	0	23
A 級	34	9	12	5	5	5	5	0	0	5
B 級	16	20	16	10	10	10	10	0	0	10
C 級	30	30	21	15	15	15	15	0	0	15
D 級	145	192	283	148	149	149	149	0	▲2	147
個人会員	1,870	1,619	1,695	1,084	1,033	1,020	992	84	▲97	979
一般会員	-	-	-	866	813	799	772	40	▲59	753
推薦会員	-	-	-	206	206	208	206	41	▲36	211
特別会員	-	-	-	12	7	8	10	3	▲2	11
名誉会員	-	-	-	0	7	5	4	0	0	4
学生会員	-	-	-	-	-	3	4	3	▲1	6
賛助会員	-	-	-	169	205	215	234	35	▲43	226
計	2,098	1,901	2,054	1,455	1,441	1,441	1,433	122	▲143	1,412

摘 要：1986年 特A級会員を設置、2007年 作業所単位会員を設置、2013年 作業所単位会員を廃止・賛助会員を設置、2020年 学生会員を設置

2. 組織及び業務の分担概要



(1) 議決機関

- 1) 総会を6月に開催し、協会の運営上重要な事項を、また、理事会を5回開催し、会務の執行に関する事項を審議した。なお、理事、監事の名簿は別表のとおりである（4頁参照）。

(2) 執行機関

- 1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐した。
- 2) 事務局では、専務理事が常勤し、会長及び副会長を補佐して会務を処理した。
- 3) 各種委員会については、4つの常設委員会において会務を分担した。また、設立50周年記念事業実行委員会を設けて活動した。受託（請負等）業務については、10の特別委員会・検討会を設け、業務を実施した。

(3) 諮問機関

- 1) 顧問・評議員会を5月と11月に開催し、会長の諮問に応じた。なお、顧問・評議員の名簿は別表のとおりである（4頁参照）。

一般社団法人日本トンネル技術協会
理事・監事・顧問・評議員名簿

令和7年3月末現在

(敬称略)

区 分	氏 名	所 属	区 分	氏 名	所 属
会 長	菊川 滋	(一財)橋梁調査会	顧 問	萩原 浩	
副会長	長谷川雅彦	(独)鉄道・運輸機構	//	小森 博	
//	押味 至一	(一社)日本建設業連合会	//	谷口 博昭	いであ(株)
専務理事	時政 宏	(一社)日本トンネル技術協会	評議員	福井 勝則	東京大学
理 事	永田 順宏	西日本高速道路(株)	//	竜澤 宏昌	(独)水資源機構
//	今井 清裕	本州四国連絡高速道路(株)	//	大野 昌仁	(一社)日本建設業連合会
//	加古聡一郎	首都高技術(株)	//	真下 英人	(一社)日本建設機械施工協会
//	堀口 知巳	(独)鉄道・運輸機構	//	千田 洋一	東日本高速道路(株)
//	大石 敬司	東京地下鉄(株)	//	牟田 広繁	中日本高速道路(株)
//	藤橋 知一	東京都下水道局	//	谷田 豊	阪神高速道路(株)
//	宮田 和	清水建設(株)	//	佐野 正幸	(株)電源開発
//	白川 賢志	大成建設(株)	//	坂口 淳一	東京都交通局
//	深沢 成年	(株)鴻池組	//	杉山 和久	(株)大林組
//	川崎 茂信	五洋建設(株)	//	森口 敏美	鹿島建設(株)
//	大場 秀彦	鉄建建設(株)	//	湯山 和利	(株)奥村組
//	後藤 良平	東亜建設工業(株)	//	岡市 光司	(株)熊谷組
//	曾根 浩	(株)安藤・間	//	宮澤 竹久	佐藤工業(株)
//	吉田 篤史	(株)フジタ	//	岩田 充弘	(株)竹中土木
//	平 喜彦	三井住友建設(株)	//	舘下 章	東洋建設(株)
監 事	齊藤 誠	東日本旅客鉄道(株)	//	岩井 健	東急建設(株)
//	清原 啓太	戸田建設(株)	//	木村 雅哉	西松建設(株)
//	築地 功	飛鳥建設(株)	//	津田 眞典	日本国土開発(株)
			//	山崎 政俊	(株)不動テトラ
			//	東福 忠彦	前田建設工業(株)
			//	田野慎一郎	青木あすなろ建設(株)
			//	福武 栄一	(株)大本組
			//	鈴木 明	(株)銭高組
			//	高木 健二	大豊建設(株)
			//	山田 裕司	若築建設(株)
			//	田中 宏征	日本製鉄(株)
			//	杉山 雅彦	JIMテクノロジー(株)
			//	入江 健二	事業委員長(メトロ開発(株))
			//	西村 和夫	技術委員長(東京都立大学)
			//	今井 智満	国際委員長(中日本高速道路(株))

役員構成：会長1名、副会長2名、専務理事1名、
理事15名、監事3名(役員計22名)
顧問3名、評議員31名

3. 会議等の概要

(1) 令和6年度定時総会

日 時： 令和6年6月6日（木）16：00～16：50

場 所： 主婦会館プラザエフ 7階 カトレア

出席者： 出席社員 社員総員 1,197 名中 873 名（73%）

出席 119 名、書面による議決権行使 70 名（全ての議案に賛成）、
委任状 684 名

出席役員 理事：菊川滋、牟田広繁、加古聡一郎、堀口知己、大石敬司、
嘉藤好彦、大場秀彦、東福忠彦、平喜彦、時政宏 以上 10 名

監事：齊藤誠、大林東壽、清原啓太 以上 3 名

（総会の成立）

時政宏専務理事が上記出席者を報告し、総会が成立した旨を告げるとともに、会員に対して総会の模様をインターネット配信していることを報告した。

（議長選出）

定款第 15 条の規定により、総会の議長を菊川滋会長にお願いし、菊川滋会長から挨拶があった。

（議事録署名者）

議長から、定款第 19 条第 2 項の規定により、総会議事録の署名人として、議長の他、出席会員の加古聡一郎氏、杉山和久氏にお願いしたい旨を諮ったところ、全員異議がなく了承、選出された。

（議 事）

菊川議長は、議案の議事に入る旨、宣した後、

1) 第 1 号議案（報告事項）令和 5 年度事業報告

2) 第 2 号議案（審議事項）令和 5 年度事業収支決算

上記 2 件を一括して上程することとし、事務局の説明を求めた。

先の理事会で承認された令和 5 年度事業報告について、会員現況、組織及び業務の分担概要、会議等の概要、各種委員会の活動状況（運営・広報事業、国際関係事業、催物事業、調査研究事業、設立 50 周年記念事業）、表彰の選考概要、及び研究助成の選考概要の説明があった。

引き続き、定款第 39 条の規定に基づき定時総会の承認事項である令和 5 年度事業収支決算について、9 種類の財務諸表等のうち正味財産増減計算書を用いて説明があっ

た。経常収益は 275,191 千円、経常費用は 238,029 千円の決算となり、当期一般正味財産額は 35,566 千円の増額で、一般正味財産残高は期首 242,573 千円から期末 278,139 千円に増額となった旨の説明があった。

引き続き、齊藤誠監事から監査結果の報告があった。

菊川議長が第 1 号議案について質問を求めたところ発言がなく、了承された。

次に、菊川議長が第 2 号議案について質問を求めたところ発言がなく、採決した結果、異議がなく、原案どおり承認された。

3) 第 3 号議案（報告事項）令和 6 年度事業計画

4) 第 4 号議案（報告事項）令和 6 年度事業収支予算

次に菊川議長は、上記 2 件について一括して上程することとし、事務局の説明を求めた。

先の理事会で承認された令和 6 年度事業計画について、運営・広報事業、国際関係事業、催物事業、設立 50 周年記念事業及び調査研究事業の概要の説明があった。

引き続き、先の理事会で承認された令和 6 年度事業収支予算について、損益ベースの会計予算書により説明があった。経常収益は前年度予算から 2,401 千円増額の 244,810 千円、経常費用は前年度予算から 19,394 千円増額の 251,629 千円とし、活発な事業活動を推進するための予算とした旨の説明があった。

菊川議長が第 3 号議案及び第 4 号議案について質問を求めたところ、発言がなく、了承された。

5) 第 5 号議案（審議事項）理事及び監事の選任

菊川議長は、上記の件について事務局の説明を求めた。

定款第 12 条第 2 号及び第 21 条第 1 項の規定により、理事及び監事の選任を諮るものであり、本総会終了を以って任期満了となる理事の坂口淳一氏、嘉藤好彦氏、岩田充弘氏、時政宏氏の 4 名、監事の大林東壽氏の 1 名、及び辞任の申し出があった理事の牟田広繁氏、森口敏美氏、中満光広氏、見喜一朗氏、大友峰春氏、加藤一郎氏、東福忠彦氏の 7 名に対し、先の理事会で推薦された理事 10 名及び監事 1 名の候補者の紹介があった。

菊川議長が第 5 号議案について質問を求めたところ発言がなく、推薦された候補者を一名ずつ諮った結果、それぞれ異議がなく、下記のとおり選任が承認された。

新任の理事：今井清裕氏、藤橋知一氏、宮田和氏、白川賢志氏、深沢成年氏、川崎茂信氏、後藤良平氏、曾根浩氏、吉田篤史氏

再任の理事：時政宏氏

新任の監事：築地功氏

(その他)

事務局から令和6年度事業を実施するにあたり、先の理事会で承認された常設委員会の委員長の紹介があった。総務委員会委員長は理事の堀口知巳氏、国際委員会委員長は評議員の今井智満氏、事業委員会委員長は評議員の入江健二氏、技術委員会委員長は評議員の西村和夫氏、設立50周年記念事業実行委員会委員長は評議員の良峰透氏であり、全て留任である。

また、菊川会長から、令和6年度功績賞3名及び功労賞2名、並びに令和5年度施工体験発表会の最優秀賞2名を表彰した。

(閉 会)

以上をもって本日の議事が終了したので、菊川議長は閉会を宣した。

(2) 理 事 会

令和6年度第1回 理事会

令和6年5月21日（火）開催 理事14名、監事3名 計17名出席

①令和6年度の役員選任

- ・理事、監事、及び評議員の選任
- ・特別会員の推薦

②常設委員会委員長の選任

③令和6年度定時総会議案

④設立50周年記念事業積立金取扱規程の改定

⑤ITA理事立候補者の選定

令和6年度第2回 理事会

令和6年6月6日（木）開催 理事10名、監事3名 その他3名 計16名出席

報告事項のみ

令和6年度第3回 理事会

令和6年6月6日（木）開催 理事15名、監事3名 計18名出席

①専務理事の選定

令和 6 年度第 4 回 理事会

令和 6 年 11 月 12 日（火）開催 理事 15 名、監事 2 名 計 17 名出席

①設立 50 周年記念事業実行委員会委員長の交替

②評議員の交替

評議員辞任：良峰 透 評議員選任：千田 洋一

評議員辞任：金治 英貞 評議員選任：谷田 豊

評議員辞任：大友 峰春 評議員選任：津田 真典

③特別会員の推薦

④令和 7 年度定時総会開催日の選定

⑤JTA 表彰（令和 7 年度表彰）の募集開始

⑥「トンネルの日」の制定

令和 6 年度第 5 回 理事会

令和 7 年 3 月 12 日（水）開催 理事 13 名、監事 3 名 計 16 名出席

①JTA 功績賞、功労賞（令和 7 年度表彰）の受賞者の決定

②令和 7 年度理事、監事、評議員の構成

③令和 7 年度定時総会議案要綱

④規程の改定（会員規程、旅費規程）

(3) 顧問・評議員会

令和 6 年度第 1 回顧問・評議員会 令和 6 年 5 月 21 日（火）開催

顧問 1 名、評議員 21 名、その他 3 名 計 25 名出席

①令和 6 年度定時総会議案

令和 6 年度第 2 回顧問・評議員会 令和 6 年 11 月 12 日（火）開催

顧問 2 名、評議員 21 名、その他 2 名 計 25 名出席

①令和 6 年度上半期の事業活動及び収支現況

②設立 50 周年記念事業の概要

③研究助成（令和 7 年交付）の募集

④JTA ビジョン関連事業の進捗状況

(4) 各種委員会（令和6年度開催状況）

委員会名	構成 人数 (人)	開催 回数 (回)	出席 人数 (人)	委員会名	構成 人数 (人)	開催 回数 (回)	出席 人数 (人)
1 総務委員会				6 北海道新幹線、新函館北斗・札幌間施工技術委員会			
委員会	15	3	38	委員会	63	2	142
企画運営幹事会	9	2	17	幹事会	49	1	32
広報小委員会	6	-	-	幹事会定例検討会	10	-	-
会誌WG	14	12	147	機械化施工小委員会	38	2	74
ホームページWG	5	-	-				
2 国際委員会				7 中央アルプストンネル施工技術委員会			
委員会	16	1	15	委員会	28	1	51
ITA小委員会	19	2	59	シールド小委員会	12	1	23
技術統括WG	12	1	8	ワーキング	16	1	45
ヤングメンバーWG	21	3	59				
海外情報小委員会	7	-	-	8 効率の点検特別委員会	34	5	130
海外文献WG	22	-	-	9 盤ぶくれ対策特別委員会	42	4	124
ニュースWG	9	11	96	10 改築設計施工技術特別検討会	20	5	113
対外広報WG	14	-	-	11 シールドトンネル設計施工特別委員会	24	3	69
3 事業委員会				12 矢上川地下調整池施工技術検討会	13	2	41
委員会	19	5	94	7号線品川～白金高輪間大深度地下使用に関する検討委員会	13	1	21
海外技術調査WG	8	2	18	14 西武鉄道新宿線連続立体交差事業技術特別委員会	22	1	27
4 設立50周年記念事業実行委員会				相模鉄道本線連続立体交差事業トンネル施工検討委員会	23	1	34
委員会	20	1	18	合計	858	128	2,226
幹事会	15	3	35				
催物企画等WG	8	6	58				
作品展示等WG	11	8	91				
映像・記念史等WG	12	8	87				
5 技術委員会							
委員会	15	2	23				
共通技術小委員会	15	-	-				
資機材検索リスト運営WG	6	1	8				
山岳工法小委員会	20	1	20				
支保WG	27	5	112				
地山評価WG	18	5	74				
都市トンネル小委員会	20	1	19				
新技術WG	4	-	-				
改善WG	16	8	125				
安全環境小委員会	20	1	19				
肌落ち災害防止対策WG	7	2	14				
自然由来重金属対策WG	5	1	7				
保守管理小委員会	16	3	39				

（注1）リモート会議等を含む。

（注2）出席人数を「-」で表記しているWG等の出席人数は上位の委員会等に含まれるものもある。

委員会数と構成員延べ人数

区分	委員会	小委員会 幹事会	WG等	計	延べ 人数
常設	5	10	18	33	451
特別	10	5	0	15	407
計	15	15	18	48	858

令和6年度各種委員会名簿

(注) 敬称略、() は前任者

1. 総務委員会

委員長	堀口 知巳
委員	奥田 晃久
委員	北出 徹也
委員	上田 俊也
委員	加古聡一郎
委員	齊藤 誠
委員	大石 敬司
委員	坂口 淳一
委員	杉山 和久
委員	森口 敏美
委員	岡市 光司
委員	宮田 和
委員	白川 賢志
委員	岩田 充弘
委員	大場 秀彦

1.1 企画運営幹事会

幹事長	上田 俊也
副幹事長	山岸 隆史
幹事	河村 和信
幹事	大津 敏郎
幹事	小泉 秀之
幹事	亀山 勝
幹事	友野 雄士
幹事	平井 卓
幹事	内藤 将史

1.2 広報小委員会

委員長	三浦 孝智
委員	木村 宏
委員	野城 一栄
委員	林 暢明
委員	河越 勝
委員	須藤 敏明

1.2.1 会誌WG

主査	木村 宏
幹事	古川 慎治
幹事	古谷 聡
幹事	小林 康範
幹事	(中野 清人)
幹事	佐久間 穰
幹事	谷口 信博
幹事	山岸 隆史
幹事	西川 泰司

幹事	友野 雄士
幹事	平井 卓
幹事	久多羅木吉治
幹事	藤本 克郎
幹事	森 正彦
協力者	山本 育徳

1.2.2 ホームページWG

主査	須藤 敏明
幹事	伊藤 哲
幹事	青柳 隆浩
幹事	安藤 拓
幹事	平井 卓

2. 国際委員会

委員長	今井 智満
委員	八尾 光洋
委員	(垣下 禎裕)
委員	福井 勝則
委員	砂金 伸治
委員	日下 敦
委員	清水 健志
委員	鹿野島秀行
委員	(村田 重雄)
委員	白鳥 明
委員	後藤 隆之
委員	青柳 隆浩
委員	平野 宏幸
委員	(延藤 遵)
委員	大塚 勇
委員	木谷 努
委員	(安田 亨)
委員	出本 剛史
顧問	石田 積
顧問	福本 勝司

2.1 ITA小委員会

委員長	砂金 伸治
委員	岸田 潔
委員	河田 皓介
委員	日下 敦
委員	吉川 直孝
委員	小泉 大哉
委員	山田伝一郎
委員	真下 英人
委員	西森 昭博

委員	岩野 圭太
委員	大森 禎敏
委員	濱崎 尚
委員	淡路 動太
委員	大塚 勇
委員	満尾 淳
委員	千葉 俊也
委員	能登 和幸
委員	小松原 渉
委員	水野 博貴

2.1.1 技術統括WG

主査	吉川 直孝
幹事	小泉 悠
幹事	中谷 匡志
幹事	新宮 康之
幹事	谷 卓也
幹事	辻川 泰人
幹事	小出 孝明
幹事	江口 康則
幹事	富田 哲平
幹事	石村 利明
幹事	上村 城司
幹事	瀧嶋 拓

2.1.2 ヤングメンバーWG

主査	岡崎 泰幸
顧問	河田 皓介
顧問	小松原 渉
幹事	菊地 浩貴
幹事	小泉 大哉
幹事	酒井 大輔
幹事	(藤本 崇人)
幹事	辰巳 鴻介
幹事	森崎 亮太
幹事	西村 友宏
副主査	秋山 崇裕
幹事	翟 思敏
幹事	(持田新太郎)
幹事	邊見 涼
幹事	長田 翔平
幹事	藤井 貴裕
幹事	木村洋太郎
幹事	石破 和弥
幹事	大津 英介
幹事	千葉 俊也

幹 事 田村 賢人
 副主査 松山 彰宏
 幹 事 水野 博貴
 幹 事 齋藤 賢吾

2.2 海外情報小委員会

委員長 福井 勝則
 委 員 清水 健志
 委 員 日下 敦
 委 員 堀口 陽子
 委 員 橋口 弘明
 委 員 秋好 賢治
 委 員 横尾 敦

2.2.1 海外文献WG

主 査 福井 勝則
 幹 事 日下 敦
 幹 事 萩原 秀樹
 幹 事 石原 陽介
 委 員 橋口 弘明
 幹 事 堀口 陽子
 幹 事 岡 滋晃
 幹 事 仲山 貴司
 幹 事 山下 健司
 幹 事 今泉 和俊
 幹 事 藤原 浩一
 幹 事 尾畑 洋
 幹 事 一ノ宮俊明
 幹 事 瀬谷 正巳
 幹 事 谷 卓也
 幹 事 畑生 浩司
 幹 事 満尾 淳
 幹 事 中山 卓人
 幹 事 米田 新
 幹 事 野間 達也
 幹 事 久慈 雅栄

2.2.2 ニュースWG

主 査 清水 健志
 幹 事 亀山 敦史
 幹 事 河田 皓介
 幹 事 外川 悠登
 幹 事 (天童 涼太)
 幹 事 山口 肇
 幹 事 内藤 雅人
 幹 事 篠原 慶二
 幹 事 戸崎 雅之
 幹 事 (山下 高俊)
 幹 事 笹田 俊之

2.2.3 対外広報WG

主 査 清水 健志
 幹 事 一木慎太郎
 幹 事 吉開 亮一
 幹 事 小泉 悠
 幹 事 佐々木翔太
 幹 事 増田 弘明
 幹 事 吉田 祥二
 幹 事 中村 真二
 幹 事 秋好 賢治
 幹 事 池田 廉
 幹 事 尾畑 洋
 幹 事 山田 宣彦
 幹 事 谷 卓也
 幹 事 淡路 動太

3. 事業委員会

委員長 入江 健二
 委 員 古川 慎治
 委 員 佐原 圭介
 委 員 小林 康範
 委 員 (中野 清人)
 委 員 坂田 聡
 委 員 長野 克哉
 委 員 岡本 順
 委 員 河邊 信之
 委 員 西浦 秀明
 委 員 岡村 正典
 委 員 山岸 隆史
 委 員 河越 勝
 委 員 平野 宏幸
 委 員 (延藤 遵)
 委 員 友野 雄士
 委 員 中原 法久
 委 員 久多羅木吉治
 委 員 戸田 一生
 委 員 熊谷 幸樹
 委 員 安田 茂人

4. 設立 50 周年記念実行委員会

委員長 千田 洋一
 委員長 (良峰 透)
 副委員長 佐原 圭介
 副委員長 久多羅木吉治
 顧 問 入江 健二
 顧 問 西村 和夫
 顧 問 今井 智満
 委 員 古川 慎治
 委 員 大山 裕司

委 員 東 好宣
 委 員 白鳥 明
 委 員 大澤 裕之
 委 員 (志野 達也)
 委 員 坂田 聡
 委 員 長野 克哉
 委 員 岡本 順
 委 員 岡 滋晃
 委 員 西浦 秀明
 委 員 山岸 隆史
 委 員 秦 健二
 委 員 友野 雄士
 幹 事 大津 敏郎

4.1 幹事会

幹事長 佐原 圭介
 副幹事長 長野 克哉
 副幹事長 岡本 順
 副幹事長 坂田 聡
 幹 事 日下 敦
 幹 事 吉川 直孝
 幹 事 鈴木 和也
 幹 事 増田 弘明
 幹 事 (山崎 哲也)
 幹 事 岡 滋晃
 幹 事 岡村 正典
 幹 事 山岸 隆史
 幹 事 河越 勝
 幹 事 秦 健二
 幹 事 中原 法久
 幹 事 安田 茂人

4.1.1 催物企画等WG

主 査 岡本 順
 副主査 山岸 隆史
 副主査 河越 勝
 委 員 今地 洋佑
 委 員 増田 弘明
 委 員 (山崎 哲也)
 委 員 藤岡 大輔
 委 員 鈴木 光嘉
 委 員 大野 義範
 委 員 (小笠原和久)

4.1.2 作品展示等WG

主 査 長野 克哉
 副主査 岡村 正典
 副主査 安田 茂人
 委 員 前原 健治

委員	日向	哲朗
委員	草信	元春
委員	野口	聡
委員	森	隆
委員	中山	卓人
委員	(神谷	侑吾)
委員	兼松	亮
委員	野口	達朗

4.1.3 映像・記念史等 WG

主 査	坂田	聡
副主査	秦	健二
副主査	中原	法久
委員	島田	剛気
委員	(西端	智洋)
委員	鈴木	和也
委員	土田	淳也
委員	加藤	卓男
委員	千葉	力
委員	佐野	潤
委員	留田	裕司
委員	(永井	誠二)
委員	神田	銀平
委員	阿部	喜生

5. 技術委員会

委員長	西村	和夫
委員	日下	敦
委員	澤田	和也
委員	佐原	圭介
委員	中野	清人
委員	齊藤	誠
委員	中田	隆一
委員	岡本	順
委員	後藤	隆之
委員	中村	誠喜
委員	青柳	隆浩
委員	手塚	仁
委員	平野	宏幸
委員	(延藤	遵)
委員	友野	雄士
委員	内藤	将史

5.1 共通技術小委員会

委員長	澤田	和也
委員	児玉	祐一
委員	日下	敦
委員	勘定	茂
委員	羽生田	康雄

委員	一寸木	朋也
委員	竹村	茂
委員	岡本	順
委員	吉本	正浩
委員	河邊	信之
委員	平野	宏幸
委員	(延藤	遵)
委員	築地	功
委員	大谷	達彦
委員	北澤	剛
幹 事	三浦	貴幸

5.1.1 資機材検索リスト運営 WG

主 査	羽生田	康雄
副主査	中田	隆一
委員	越田	健
委員	白井	隆裕
委員	鈴木	康之
委員	早川	文也

5.2 山岳工法小委員会

委員長	佐原	圭介
特別委員	上野	光
委員	日下	敦
委員	海瀬	忍
委員	水野	光一朗
委員	恒川	明伸
委員	野城	一栄
委員	河邊	信之
委員	後藤	隆之
委員	溝畑	陽一
委員	青柳	隆浩
委員	杉本	憲一
委員	草信	元春
委員	石井	三郎
委員	友野	雄士
委員	築地	功
委員	大谷	達彦
委員	末松	幸人
委員	水谷	和彦
委員	岡田	隆一

5.2.1 支保 WG

主 査	佐原	圭介
委員	菊地	浩貴
委員	加藤	友祐
委員	小澤	啓明
委員	稲葉	秀雄
委員	溝畑	陽一

委員	西村	友宏
委員	河村	巧
委員	村上	和哉
委員	青木	宏一
委員	富澤	直樹
委員	北村	圭佑
委員	草信	元春
委員	石井	三郎
委員	西谷	友幸
委員	川島	義和
委員	三浦	雅也
委員	松岡	正博
委員	今村	新吾
委員	熊谷	幸樹
委員	鈴木	健
委員	山仲	徹
委員	三河内	永康
委員	春田	克樹
委員	中込	正貴
委員	國村	省吾
委員	五十嵐	数馬

5.2.2 地山評価 WG

主 査	上野	光
顧問	木谷	日出男
委員	太田	岳洋
委員	増田	弘明
委員	西金	佑一郎
委員	田中	姿郎
委員	奥澤	康一
委員	栗原	啓丞
委員	片山	政弘
委員	淡路	勳太
委員	小山	俊滉
委員	山下	雅之
委員	永井	誠二
委員	小熊	登
委員	松長	剛
幹 事	中谷	匡志
幹 事	石濱	茂崇
幹 事	高馬	崇

5.3 都市トンネル小委員会

委員長	岡本	順
委員	神田	大
委員	一寸木	朋也
委員	小泉	秀之
委員	猪野	祐一
委員	田村	基

委員	岡 滋晃
委員	武田 厚
委員	福居 雅也
委員	中川 雅由
委員	河越 勝
委員	松田 昌彦
委員	井櫻 潤示
委員	鈴木 高広
委員	久多羅木吉治
委員	島村 健司
委員	野本 康介
委員	片岡希誉司
委員	五十嵐英史
特別委員	名倉 浩
特別委員	加藤 卓男
特別委員	早川 淳一
特別委員	天野 圭介
特別委員	小川 智彦
特別委員	中村 太三
特別委員	加取 新
特別委員	齊藤 一男
特別委員	平田 惣一

5.4 安全環境小委員会

委員長	中野 清人
委員	児玉 祐一
委員	森本 智
委員	東 好宣
委員	河村 和信
委員	吉川 直孝
委員	土屋 良直
委員	加藤 友祐
委員	沼田 敦
委員	花輪 高史
委員	(中島 陽)
委員	嶋本 敬介
委員	尾畑 洋
委員	草信 元春
委員	白井 隆裕
委員	浅野健一郎
委員	岡山 孝
委員	中原 法久
委員	田辺 昭博
委員	大野 義範
委員	小林 正治

5.5 保守管理小委員会

委員長	齊藤 誠
幹事長	大澤 裕之
幹事長	(志野 達也)
委員	児玉 祐一
委員	小泉 悠
委員	大津 敏郎
委員	永井 政伸
委員	山本 努
委員	玉松潤一郎
委員	竹村 茂
委員	田渕宗一郎
委員	恒川 明伸
委員	野城 一栄
委員	永田 常雄
委員	北川 真也
委員	川端 康夫
幹事	鈴木 和也

6. 北海道新幹線 トンネル施工技術委員会

委員長	三上 隆
副委員長	小山 幸則
委員	大島 洋志
委員	朝倉 俊弘
委員	東畑 郁生
委員	川村 信人
委員	五十嵐敏文
委員	藤井 義明
委員	岸田 潔
委員	安原 英明
委員	太田 岳洋
委員	倉橋 稔幸
委員	大津 直
委員	北川 修三
委員	小西 真治
委員	長谷川 淳
委員	野城 一栄
委員	進藤 州弘
委員	保田 尚俊
ワザ・パー	林 華奈子
協力者	平野 邦彦
協力者	岡田 良平
協力者	小野 颯司
協力者	魚津 宗
協力者	芳賀 康司
協力者	井浦 智実
協力者	江島 武
協力者	山東 徹生
協力者	佐原 圭介
協力者	千代 啓三
協力者	神田 大
協力者	上野 光
協力者	長谷川正明
協力者	福山 恵夫
協力者	山本 武史
協力者	梶田 覚
協力者	内田 雅洋
協力者	米澤 豊司
協力者	小伊豆俊博
協力者	高氏 昇
協力者	阿部 信介
協力者	南 邦明
協力者	磯谷 篤実
協力者	須澤 浩之
協力者	西村 直樹
協力者	鈴木 隆
協力者	藤原 哲男

協力者 樋口 哲哉
協力者 小林 等
協力者 金子 伸生
協力者 鶴谷 建太
協力者 石井 秀和
協力者 長井 崇徳
協力者 吉村 直人
協力者 斉藤 道真
協力者 山口 洋介
協力者 兼安 英紀
協力者 松尾 健治
協力者 上松 苑
協力者 古屋 元規
協力者 川端 一史
協力者 長川 善彦
協力者 藤川 博樹

6.1 北海道新幹線 トンネル施工技術委員会幹事会

幹事長 岸田 潔
幹 事 安原 英明
幹 事 太田 岳洋
幹 事 小西 真治
幹 事 長谷川 淳
幹 事 野城 一栄
幹 事 進藤 州弘
幹 事 勝見 武
幹 事 福田 大祐
幹 事 保田 尚俊
幹 事 菊本 統
協力者 小野 顕司
協力者 芳賀 康司
協力者 井浦 智実
協力者 江島 武
協力者 千代 啓三
協力者 神田 大
協力者 上野 光
協力者 長谷川正明
協力者 福山 恵夫
協力者 山本 武史
協力者 梶田 覚
協力者 内田 雅洋
協力者 米澤 豊司
協力者 小伊豆俊博
協力者 高氏 昇
協力者 阿部 信介
協力者 南 邦明
協力者 磯谷 篤実
協力者 須澤 浩之

協力者 西村 直樹
協力者 鈴木 隆
協力者 藤原 哲男
協力者 樋口 哲哉
協力者 小林 等
協力者 金子 伸生
協力者 鶴谷 建太
協力者 石井 秀和
協力者 長井 崇徳
協力者 吉村 直人
協力者 斉藤 道真
協力者 山口 洋介
協力者 兼安 英紀
協力者 松尾 健治
協力者 上松 苑
協力者 古屋 元規
協力者 川端 一史
協力者 長川 善彦
協力者 藤川 博樹

6.2 北海道新幹線 トンネル施工技術委員会幹事会定例検討会

主 査 岸田 潔
幹 事 安原 英明
幹 事 菊本 統
幹 事 保田 尚俊
幹 事 福田 大祐
幹 事 太田 岳洋
幹 事 小西 真治
幹 事 野城 一栄
幹 事 嶋本 敬介
幹 事 長谷川 淳

6.3 北海道新幹線 機械化施工小委員会

委員長 小山 幸則
委 員 杉本 光隆
委 員 中川 光弘
委 員 五十嵐敏文
委 員 藤井 義明
委 員 勝見 武
委 員 岸田 潔
委 員 岩波 基
委 員 太田 岳洋
委 員 上原 元樹
委 員 牛田 貴士
委 員 小西 真治
委 員 進藤 州弘
委 員 野口 守

委 員 野々村政一
委 員 菊本 統
ワザバー 上澤 真平
協力者 岡田 良平
協力者 小野 顕司
協力者 魚津 宗
協力者 芳賀 康司
協力者 井浦 智実
協力者 江島 武
協力者 山東 徹生
協力者 佐原 圭介
協力者 千代 啓三
協力者 神田 大
協力者 上野 光
協力者 長谷川正明
協力者 福山 恵夫
協力者 磯谷 篤実
協力者 須澤 浩之
協力者 岡田 岳彰
協力者 西村 直樹
協力者 金子 伸生
協力者 吉村 直人
協力者 上松 苑
協力者 長川 善彦

7. 中央アルプストンネル施工技術委員会

委員長 朝倉 俊弘
委 員 小山 幸則
委 員 大島 洋志
委 員 西村 和夫
委 員 杉本 光隆
委 員 岸田 潔
委 員 小嶋 智
委 員 八嶋 厚
委 員 西垣 誠
委 員 太田 岳洋
委 員 常盤 哲也
委 員 海瀬 忍
ワザバー 長谷川 淳
ワザバー 古谷 佳久
ワザバー 梅村 哲男
協力者 上田日出男
協力者 堀口 知巳
協力者 瓜生 良知
協力者 山崎 貴之
協力者 山東 徹生
協力者 佐原 圭介
協力者 奥原 祐治

協力者 黒瀬 信弘
協力者 末原 純
協力者 直江 久永
協力者 湊 敦之
協力者 跡部 拓己
協力者 福山 拓郎

7.1 中央アルプストンネル施工技術委員会 シールド小委員会

委員長 小山 幸則
委 員 西村 和夫
委 員 杉本 光隆
委 員 岸田 潔
委 員 津野 究
協力者 三浦 貴幸
協力者 伊藤 浩
協力者 神田 大
協力者 黒瀬 信弘
協力者 末原 純
協力者 直江 久永
協力者 跡部 拓己

7.2 中央アルプストンネル施工技術委員会 ワーキング

委員長 朝倉 俊弘
委 員 小山 幸則
委 員 大島 洋志
委 員 岸田 潔
委 員 小嶋 智
委 員 西垣 誠
ワザール 高見健太郎
協力者 山崎 貴之
協力者 伊藤 浩
協力者 奥原 祐治
協力者 黒瀬 信弘
協力者 末原 純
協力者 直江 久永
協力者 湊 敦之
協力者 跡部 拓己
協力者 福山 拓郎

8. 効率の点検特別委員会

委員長 西村 和夫
副委員長 砂金 伸治
委 員 石田 哲也
委 員 森本 智
委 員 藤田 一宏
委 員 大津 敏郎
委 員 海瀬 忍

委 員 水野 希典
委 員 山田 隆昭
委 員 大澤 誠司
委 員 八木 弘
委 員 谷口 徹也
委員兼幹事長 松岡 茂
委員兼幹事 須藤 敏明
委員兼幹事 西脇 敬一
委員兼幹事 平間 昭信
委員兼幹事 望月 誠一
委員兼幹事 重田 佳幸
委員兼幹事 高橋 幸一
協力者 日下 寛彦
協力者 橋本 祐貴
協力者 (上杉 亮)
協力者 庭田 和弥
協力者 (白石 貴之)
協力者 其田泰啓穰
協力者 前川 和彦
協力者 (中島 康介)
協力者 倭 大史
協力者 横塚 裕和
協力者 (櫻谷 慶治)
協力者 新藤 秀記
協力者 (櫻谷 慶治)
協力者 (粕 忠弘)
協力者 久保田 潤
協力者 (上谷 明生)
協力者 西川 祐平
事務局 (中野 清人)
事務局 小林 康範
事務局 山崎 哲也
事務局 金藤 和慶
事務局 鈴木 俊雄
事務局 (藤本 崇人)
事務局 酒井 大輔

9. 盤ぶくれ対策特別委員会

委員長 西村 和夫
副委員長 砂金 伸治
委 員 蔣 宇静
委 員 菊本 統
委 員 日下 敦
委 員 上野 光
委 員 嶋本 敬介
委 員 藤田 一宏
委 員 大津 敏郎
委 員 清田 康明
委 員 中野 清人

委 員 海瀬 忍
委 員 岩尾 哲也
委 員 山田 隆昭
委 員 八木 弘
委員兼幹事長 太田 裕之
委員兼幹事 河邊 信之
委員兼幹事 出口 大輔
委員兼幹事 板谷 裕次
委員兼幹事 宮嶋 保幸
委員兼幹事 青木 宏一
委員兼幹事 安藤 拓
委員兼幹事 須藤 敏明
委員兼幹事 川島 義和
委員兼幹事 川端 康夫
委員兼幹事 (盛重 知也)
委員兼幹事 鈴木 健
委員兼幹事 中込 正貴
協力者 (碓本 大)
協力者 日下 寛彦
協力者 (上杉 亮)
協力者 橋本 祐貴
協力者 本間 龍介
協力者 前川 和彦
協力者 (中島 康介)
協力者 倭 大史
協力者 金田 遥
協力者 (北川 真史)
協力者 (池端 信哉)
協力者 薦野 温也
協力者 (櫻谷 慶治)
協力者 (金山 隼人)
協力者 水野 希典
協力者 (粕 忠弘)
協力者 新藤 秀記
協力者 下田 晃伸
協力者 (真有 祥太)
協力者 飯田 浩貴
事務局 (中野 清人)
事務局 小林 康範
事務局 山崎 哲也
事務局 金藤 和慶
事務局 鈴木 俊雄
事務局 増田 弘明
事務局 (藤本 崇人)

10. 改築設計施工特別検討会

主 査 鈴木 雅行
委 員 板谷 裕次
委 員 加藤 公章

委員	福田 毅
委員	須藤 敏明
委員	鈴木 雅之
委員	(須志田藤雄)
委員	渡辺 章
委員	鈴木 健
委員	中込 正貴
協力者	日下 寛彦
協力者	橋本 祐貴
協力者	前川 和彦
協力者	倭 大史
協力者	水野 希典
協力者	新藤 秀記
事務局	小林 康範
事務局	山崎 哲也
事務局	金藤 和慶
事務局	鈴木 俊雄
事務局	加藤 友祐

11. シールドトンネル設計施工特別委員会

委員長	砂金 伸治
委員	牛田 貴士
委員	小泉 悠
委員	池田 浩基
委員	下田 哲史
委員	勘定 茂
委員兼幹事長	寺戸 秀和
委員兼幹事	河越 勝
委員兼幹事	井櫻 潤示
委員兼幹事	武田 厚
委員兼幹事	中川 雅由
委員兼幹事	江本 宏明
委員兼幹事	天野 圭介
委員兼幹事	宮澤 昌弘
委員兼幹事	(秋月 勇人)
協力者	日下 寛彦
協力者	橋本 祐貴
協力者	前川 和彦
協力者	倭 大史
協力者	水野 希典
協力者	新藤 秀記
事務局	小林 康範
事務局	金藤 和慶
事務局	増田 弘明
事務局	酒井 大輔

12. 矢上川地下調節池 施工技術検討会

委員長	小山 幸則
委員	砂金 伸治
委員	岩波 基
委員	菊本 統
委員	真下 英人
事務局	中丸 博史
事務局	黒崎 克彦
事務局	堀 大佑
事務局	菊池 勝吉
事務局	清水 譲
事務局	曾根 龍太
事務局	原 貴史
事務局	古野 貴史

13. 7号線品川～白金高輪間大深度地下使用に関する検討委員会

委員長	小泉 淳
委員	赤木 寛一
委員	小山 幸則
委員	西垣 誠
委員	神田 政幸
事務局	大石 敬司
事務局	伊藤 聡
事務局	白子 慎介
事務局	鈴木 章悦
事務局	大塚 努
事務局	橋口 弘明
事務局	根本 早季
事務局	岡ノ谷圭亮

14. 西武鉄道新宿線(中井駅～野方駅間)連続立体交差事業技術検討委員会

委員長	小山 幸則
委員	大石 敬司
委員	久野健一郎
委員	安田 智
委員	角 秀行
委員	陰山 健司
事務局	加藤 孝志
事務局	山口 竜
事務局	天野 清和
事務局	近江 淳一
事務局	山崎 健二

事務局	堀田 竜生
事務局	佐藤賢太郎
事務局	関川 正彦
事務局	石井 勇希
事務局	小林 豊
事務局	廣瀬 裕也
事務局	渡辺夕布子
事務局	小澤 史周
事務局	生駒 学
事務局	東 伸一
事務局	建川 和也

15. 相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事業トンネル施工検討委員会

委員長	小山 幸則
委員	小西 真治
委員	伊藤 聡
委員	岩波 基
委員	菊本 統
委員	相崎 哲成
オブザーバー	栗本 高史
オブザーバー	古瀬 円
幹事長	鈴木 知徳
幹事	上田 武彦
幹事	鎌倉 友之
幹事	出浦 利彦
幹事	濱 新司
オブザーバー	土村 浩二
オブザーバー	根本 進平
事務局	飯田 孝治
事務局	高木 信一
事務局	松浦 史朗
事務局	漆原 芳弘
事務局	榎本 崇
事務局	熊谷 憲二
事務局	山西 雄大
事務局	沼澤憲二郎

4. 運営・広報事業の概要

総務委員会委員長 堀口 知巳

本会の事業の運営方針や広報活動について全体調整を行うとともに、企画運営幹事会及び広報小委員会において、具体的な実施方策を検討した。また、国内外からの技術協力や協賛・後援依頼について検討した。

- ①令和 6 年度事業報告、決算及び令和 7 年度事業計画、予算案を検討した。
- ②令和元年度に策定した JTA ビジョンを踏まえ、事業の実施のための具体策を検討した。

(1) 企画運営幹事会

幹事長 上田 俊也

- ③研究助成、JTA 表彰等の事業の実施について検討した。
- ④産学官の意見交換会を「担い手確保、生産性向上等」をテーマに実施し、意見交換要旨をウェブサイトの会員限定情報に掲示した。
- ⑤デジタル技術情報の会員への提供方法について検討を実施した。その一環として、会誌の技術報文の PDF 化を実施した。

(2) 広報小委員会

委員長 三浦 孝智

- ⑥メールマガジンによりイベント情報等の積極的な情報発信を行うとともに、会員以外への情報発信手段として、メールマガジン登録者制度（無料）を創設し、令和 6 年 11 月から運用を開始した。
- ⑦ウェブサイト及び会誌「トンネルと地下」等により、広報活動の充実に努めた。
- ⑧各種委員会の研究成果である貴重な技術情報の活用を図るため、頒布図書資料の広報活動に努めた。

5. 国際関係事業の概要

国際委員会委員長 今井 智満

ITA 活動等への参加などを通じて、トンネル技術に関する各国の情報収集、わが国からの情報発信及び国際協力に努めた。

(1) ITA 小委員会

委員長 砂金 伸治

- ①ITA を通じてわが国のトンネル技術情報を積極的に発信するとともに、各種作業部会(WG)に参加するなど ITA の場の活用に努めた。
- ②4 月に開催された第 50 回 ITA 総会（中国・深圳）に代表者を派遣した。また、団体会員 10 社と共同で技術展示を実施するなど、わが国のトンネル技術情報を積極的に発信するとともに、作業部会（WG）に参加し活動した。その結果報告は、会誌 2024 年 10 月号に掲載した。
- ③2025 年 5 月に開催される第 51 回 ITA 総会・WTC2025（スウェーデン・ストックホルム）への対応方針について検討した。

(2) 海外情報小委員会

委員長 福井 勝則

- ④トンネル技術に関する海外の雑誌のニュースおよび記事を抽出、翻訳して会誌に掲載した。
- ⑤わが国のトンネル技術を積極的に世界に発信するため、「Tunnelling Activities in Japan 2024」を編集した。
- ⑥英文ウェブサイトのリニューアルを 2024 年 6 月に実施した。

頒 布 図 書 一 覧

令和6年度は、これまでの研究成果を主とした下記図書資料 213 部 を頒布した。

刊行 年度	図書 番号	図 書 名	頒布 部数	残部数
1985	6008	トンネル工事の安全－NATM編－	0	51
1990	90001	大深度地下利用技術（邦文）	0	8
	90002	大深度地下利用技術（英文）	0	7
1992	92006	トンネル工事の安全－斜坑・立坑編－	1	30
1998	98003	トンネル工事の安全－山岳トンネル機械掘削編－	2	2
1999	99001	トンネル工事の安全－山岳発破作業編－	2	3
2000	200010	大深度地下利用技術調査小委員会報告書－テキスト－	0	25
	200011	大深度地下利用技術調査小委員会報告書－モデル検討－	0	49
2001	200104	電力用立坑の性能照査型設計手引	0	13
2002	200105	覆工コンクリート施工の手引き	0	63
	200207	S U S 9 国際会議	0	20
2003	200303	性能照査型ガイドライン講習会	0	27
2005	200508	トンネル技術白書－山岳トンネル施工技術の現況と変遷－	1	96
2015	201504	都市部近接施工ガイドライン	50	104
	201505	設立40周年記念事業「シールド技術変遷史」	1	123
2018	201805	山岳トンネル工事に係るセーフティ・アセスメントに関する指針・同解説	3	200
	201806	シールド工事に係るセーフティ・アセスメントに関する指針・同解説	4	261
2019	201901	トンネル年報 2019	0	125
2020	202001	トンネル年報 2020	0	222
	202005	トンネル管理技術者のための維持管理に関するQ&A	109	16
2021	202101	トンネル年報 2021	0	244
2022	202201	トンネル年報 2022	1	8
	202202	山岳トンネル工法における防水工指針（改訂版）	20	273
2023	202301	トンネル年報 2023	0	0
2024	202401	トンネル年報 2024	19	92
合 計 25 件			213	2,062

6. 催物事業の概要

事業委員会委員長 入江 健二

当面する技術課題を踏まえた各種催物を企画・開催し、トンネル関係の人材育成のための機会や情報を提供するとともに、トンネル関係者の実務上有益な知識の向上を図った。

① 現場研修会

国内の各種トンネル工事現場での研修会（見学会）を計画的に実施し、6回開催した。

② 施工体験発表会

第94回施工体験発表会（山岳トンネル部門）は、「様々な課題にチャレンジした山岳トンネルの建設およびトンネルリニューアル工事－創意工夫・生産性・安全性向上、働き方改革－」を、第95回施工体験発表会（都市トンネル部門）は、「都市におけるトンネル・地下構造物の新設・改良工事－環境配慮、施工改善、近接物対応事例－」を課題として、10月17日（木）、18日（金）に、会場とリモート参加を併用したハイブリッド形式で開催した。

③ 講習会

第2回「よくわかる切羽観察の基礎知識」講習会を11月21日（木）に会場とリモート併用のハイブリッド型で開催した（演習は会場のみ実施）。

「山岳トンネル維持管理業務講習会（基礎編）」を12月6日（金）に、「山岳トンネル維持管理業務講習会（実践編）」を令和7年1月31日（金）に、各々、会場とリモート併用のハイブリッド型で開催した。

④ トンネル技術ステップアップ研修会

トンネル実務経験の少ない中堅技術者を対象として、シールド部門を令和7年1月16日、17日（木、金）に開催し、山岳部門を2月12日、13日（水、木）に開催した。

⑤ 講演会

助成研究の研究成果発表会を、令和5年度までに終了した3件を対象に、11月20日（水）にリモート形式で開催した。

「地下空間の新たな利用－自動物流道路－」と題した公開技術講演会（参加費無料）を12月3日（火）にリモート形式で開催した。

⑥ 海外技術調査

オーストリア、スイス、フランスを対象とした海外技術調査を令和7年2月に実施した。

令和6年度各種催物開催実績

催物名	開催日	参加者数	開催場所	CPD取得単位
(現場研修会)				
思川開発導水路トンネル工事	2024. 5. 31	18	栃 木	2.5
都内の高速道路におけるランプシールド工事	2024. 7. 9	30	東 京	2.5
北海道新幹線札幌トンネル工事（札幌工区）	2024. 9. 26	15	北海道	1.9
徳島南環状道路僧都山トンネル工事	2024.11. 6	16	徳 島	2.0
新名神高速道路梶原トンネル工事	2024.11.19	25	大 阪	2.2
みなとみらい 21 線車両留置場建設工事	2025. 1. 22	17	神奈川	2.0
(施工体験発表会)				
第 94 回（山岳）「様々な課題にチャレンジした山岳トンネルの建設およびトンネルリニューアル工事－創意工夫・生産性・安全性向上、働き方改革－」	2024.10.17	115	東 京 ハイブリッド	5.7
第 95 回（都市）「都市におけるトンネル・地下構造物の新設・改良工事－環境配慮、施工改善、近接物対応事例－」	2024.10.18	82	東 京 ハイブリッド	4.4
(講習会・研修会)				
第 2 回よくわかる「切羽観察の基礎知識」講習会	2024.11.21	29	東 京 (会場参加)	4.5
		55	リモート	2.4
山岳トンネル維持管理業務講習会（基礎編）	2024.12. 6	15	東 京 (会場参加)	6.2
		37	リモート	
山岳トンネル維持管理業務講習会（実践編）	2025. 1. 31	22	東 京 (会場参加)	5.9
		32	リモート	
第 22 回トンネル技術ステップアップ研修会（シールド部門）	2025. 1. 16 ～ 1.17	34	東 京	13.9
第 19 回トンネル技術ステップアップ研修会（山岳部門）	2025. 2. 12 ～ 2.13	20	東 京	11.9
(講演会)				
第 1 回 JTA 助成研究の研究成果発表会	2024.11.20	52	リモート	無
第 3 回公開技術講演会 「地下空間の新たな利用－自動物流道路－」	2024.12. 3	112	リモート	無
(海外技術調査)				
海外トンネル技術調査（オーストリア・スイス・フランス）	2025. 2. 15 ～ 2.25	24	左記 3 か国	16.5

注；ハイブリッドとは、会場とリモート参加の併用形式。

令和 6 年度施工体験発表会 優秀発表者

第 94 回(山岳)ならびに第 95 回(都市)施工体験発表会に係る発表者の表彰について審査した結果、下記のとおりとなった(最優秀賞の論文は、会誌 2025 年 6 月号に掲載した)。

第 94 回(山岳)施工体験発表会

開催テーマ:様々な課題にチャレンジした山岳トンネルの建設およびトンネルリニューアル工事

— 創意工夫・生産性・安全性向上、働き方改革 —

開催日:令和 6 年 10 月 17 日(木) 開催場所:機械振興会館(リモート併用開催)

発表者:17 名

<最優秀賞>

受賞者 藤原 浩一 鹿島建設(株)

発表論文 三車線断面トンネルにおける導坑先進工法の効果検証

— 新名神高速道路 大津大石トンネル工事 —

<優秀賞>

受賞者 岡崎 雄一 (株)大林組

発表論文 小断面 NATM における熱水変質を受けた低強度地山と多量湧水への対策

— 北海道縦貫自動車道 七飯町 大沼トンネル避難坑西大沼工区 —

<優秀賞>

受賞者 前原 一稀 清水建設(株)

発表論文 国内最大のプレキャスト覆工の施工

— 熊本 57 号滝室坂トンネル西新設(二期)工事 —

<奨励賞>

受賞者 蔭山 凌 大成建設(株)

発表論文 掘削断面積 330m²の分岐大断面トンネルの計画と施工

— 中央新幹線第一中京圏トンネル新設(西尾工区) —

第 95 回(都市)施工体験発表会

開催テーマ:都市におけるトンネル・地下構造物の新設・改良工事

— 環境配慮、施工改善、近接物対応事例 —

開催日:令和 6 年 10 月 18 日(金) 開催場所:機械振興会館(リモート併用開催)

発表者:13 名

<最優秀賞>

受賞者 市丸 智大 (株)大林組

発表論文 地中構造物が残された埋立地盤における各種リスクを低減した確実なシールド掘進

— 北港テクノポート線インフラ部整備工事 —

<優秀賞>

受賞者 弘瀬 雄太 戸田建設(株)

発表論文 角型エレメント推進工法による鉄道駅非開削大断面トンネルの構築

— 相鉄・東急直通戦、綱島トンネル他工事 —

<優秀賞>

受賞者 金子 周平 (株)熊谷組

発表論文 近接構造物に配慮したシールドトンネルおよび中間立坑工の構築

— 北大阪急行線の延伸事業のうち土木工事 —

7. 調査研究事業の概要

調査研究事業では、自主研究と受託（請負等）研究を実施した。自主研究では、技術委員会のもと、トンネルや地下空間の建設及び維持管理に関する当面の課題や会員のニーズに応えることに力点を置き、調査研究の実施に努めた。また、受託（請負等）研究では、6 機関から 10 件の技術調査検討業務を受託（請負等）し、学識経験者からなる特別委員会等を設置・検討して成果を取りまとめ、委託者（発注者）の要望に応えた（受託業務一覧表：24 頁参照）。委員会毎の主な活動の内容は、以下のとおりである。

(1) 技術委員会

委員長 西村 和夫

今日的な課題や会員のニーズを把握するための情報収集に努め、得られた結果からテーマを選定し調査研究を実施した。各小委員会の活動概要は、以下のとおりである。

1) 共通技術小委員会

委員長 澤田 和也

①ウェブサイトの資材機械検索リストの内容の充実を図るため、関連各社へ最新資材機械情報の調査を実施し、調査結果を基に更新作業を実施した。

2) 山岳工法小委員会

委員長 佐原 圭介

- ②掘削・支保工作業の生産性に関わる問題点と課題について、検討を実施した。
- ③よくわかる「切羽観察の基礎知識」講習会再開のため、関連資料の見直し、新資料の追加等を実施し、第2回よくわかる「切羽観察の基礎知識」講習会を令和6年11月に開催した。
- ④「トンネル技術者のための地質（縦断・平面）図の見方」について課題の整理や検討を実施した。

3) 都市トンネル小委員会

委員長 岡本 順

- ⑤シールド工事における新技術について調査検討を実施し、本会ウェブサイト上に試行版を掲載した。
- ⑥シールド工事のトラブル事例について調査検討を実施し、想定を含むトラブル事例集の編集作業を実施した。

4) 安全環境小委員会

委員長 中野 清人

- ⑦肌落ち災害防止対策についてのアンケート調査を実施し、調査結果の取りまとめを行った。
- ⑧環境保全として、自然由来の重金属を含むトンネルのずり処理対策事例について、対策事例及び文献調査を実施し、收集整理を行った。

5) 保守管理小委員会

委員長 齊藤 誠

- ⑨山岳トンネル維持管理業務講習会の基礎編および実践編について、これまでのアンケート結果等を踏まえて企画し、リモート併用形式により、基礎編を令和6年12月に、実践編を令和7年1月に開催した。
- ⑩トンネル点検の新技术に関する情報交換を行うとともに、その内容を「トンネル維持管理に関する最近の取組事例」として整理し、本会ウェブサイト継続掲載した。

(2) 受託研究特別委員会（特別委員会）

6 機関から 10 件の技術課題を受託（請負等）し、学識経験者からなる特別委員会等を設置し、委託者（発注者）の要望に応えるよう検討・実施した。

- 1) 北海道新幹線、新函館北斗・札幌間トンネル施工技術委員会 委員長 三上 隆
（独）鉄道・運輸機構北海道新幹線建設局から「北海道新幹線、トンネル設計施工の研究 R5」業務を受け実施した。

- 2) 中央アルプストンネル施工技術委員会 委員長 朝倉 俊弘
（独）鉄道・運輸機構関東甲信工事局から「トンネルの設計・施工に関する技術的検討 3」業務を受け実施した。

- 3) 効率的点検特別委員会 委員長 西村 和夫
（株）高速道路総合技術研究所から「覆工コンクリートの効率的な点検に関する基礎資料作成」業務（令和 5 年度業務）を受け実施した。

- 4) 盤ぶくれ対策特別委員会 委員長 西村 和夫
（株）高速道路総合技術研究所から「盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成」業務（令和 5 年度業務、令和 6 年度業務）を受け実施した。

- 5) 改築設計施工技術特別検討会 主 査 鈴木 雅行
（株）高速道路総合技術研究所から「トンネル改築の設計施工技術に関する研究」業務（令和 6 年度業務）を受け実施した。

- 6) シールドトンネル設計施工特別委員会 委員長 砂金 伸治
（株）高速道路総合技術研究所から「シールドトンネル設計施工技術に関する研究」業務（令和 6 年度業務）を受け実施した。

- 7) 矢上川地下調節池施工技術検討会 委員長 小山 幸則
神奈川県横浜川崎治水事務所川崎治水センターから「令和 6 年度河川改修工事 県単（その 3）及び（その 13）矢上川地下調整池施工技術検討会運営及び調整業務委託」を受け実施した。

- 8) 7 号線品川～白金高輪間大深度地下使用に関する検討委員会 委員長 小泉 淳
東京地下鉄（株）から「7 号線品川～白金高輪間大深度地下使用に関する検討委員会に伴う検討（2024 年度）業務」を受け実施した。

- 9) 西武鉄道新宿線（中井駅～野方駅間）連続立体交差事業シールドトンネル技術検討委員会 委員長 小山 幸則
西武鉄道（株）から「新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に伴うシールド工事技術検討委員会運営業務」を受け実施した。

- 10) 相模鉄道本線（鶴ヶ島駅付近）連続立体交差事業に伴うトンネル施工検討委員会 委員長 小山 幸則
相模鉄道（株）から「相模鉄道本線（鶴ヶ島駅付近）連続立体交差事業に伴うトンネル施工検討委員会運営業務」を受け実施した。

令和6年度受託業務契約一覧

(契約額単位：円、税込)

No	委託者	委託件名	契約額	工 期	摘 要
1	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R5	25,091,000	R5.12.26 ～R8.6.25	複数年契約
2	(独)鉄道・運輸機構 関東甲信工事局	トンネルの設計・施工に関する技術検討3	8,129,000	R4.4.1 ～R7.6.30	複数年契約
3	㈱高速道路総合技術研究所	令和5年度覆工コンクリートの効率的な点検に関する基礎資料作成	25,245,000	R6.4.6 ～R7.1.30	
4	㈱高速道路総合技術研究所	令和5年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	49,907,000	R5.8.26 ～R6.7.20	複数年契約
5	㈱高速道路総合技術研究所	令和6年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	(契約済)	R6.8.24 ～R7.7.19	複数年契約 (完成払)
6	㈱高速道路総合技術研究所	令和5年度トンネル改築の設計施工技術に関する技術資料作成	11,187,000	R5.6.17 ～R6.5.11	複数年契約
7	㈱高速道路総合技術研究所	令和6年度トンネル改築の設計施工技術に関する技術資料作成	(契約済)	R6.7.6 ～R7.5.1	複数年契約 (完成払)
8	㈱高速道路総合技術研究所	令和6年度シールドトンネルの設計施工技術に関する基礎資料作成	(契約済)	R6.8.30 ～R7.10.23	複数年契約 (完成払)
9	神奈川県横浜川崎治水事務所 川崎治水センター	令和6年度河川改修工事 県単(その3) 矢上川地下調整池施工技術検討会運営及び調整業務	557,700	R6.4.25 ～R6.9.30	
10	神奈川県横浜川崎治水事務所 川崎治水センター	令和6年度河川改修工事 県単(その13) 矢上川地下調整池施工技術検討会運営及び調整業務	781,000	R6.9.18 ～R7.3.31	
11	西武鉄道(株)	新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に伴うシールド工事技術検討委員会運営業務	220,000	H30.7.12～	複数年契約
12	相模鉄道(株)	相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事業に伴うトンネル施工検討委員会運営業務	770,000	R4.11.24 ～R9.3.31	複数年契約
13	東京地下鉄(株)	7号線品川～白金高輪間大深度地下使用に関する検討委員会に伴う検討(2024年度)業務	2,035,000	R6.11.1 ～R7.3.10	
令和6年度会計合計			123,922,700 (10件)		

次年度以降会計契約額

No	委託者	委託件名	R7(2025)年度 以降契約額	摘 要	摘 要
1	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R5	27,016,000	R5.12.26 ～R8.6.25	継 続 (契約額 52,107,000円)
2	(独)鉄道・運輸機構 関東甲信工事局	トンネルの設計・施工に関する技術検討3	2,805,000	R4.4.1 ～R7.6.30	継 続 (契約額 26,136,000円)
5	㈱高速道路総合技術研究所	令和6年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	41,558,000	R6.8.24 ～R7.7.19	継 続
7	㈱高速道路総合技術研究所	令和6年度トンネル改築の設計施工技術に関する技術資料作成	27,863,000	R6.7.6 ～R7.5.1	継 続
8	㈱高速道路総合技術研究所	令和6年度シールドトンネルの設計施工技術に関する基礎資料作成	21,318,000	R6.8.30 ～R7.10.23	継 続
11	西武鉄道(株)	新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に伴うシールド工事技術検討委員会運営業務	220,000	H30.7.12～	継 続 (契約額 5,430,000円)
12	相模鉄道(株)	相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事業に伴うトンネル施工検討委員会運営業務	957,000	R4.11.24 ～R9.3.31	継 続 (契約額 5,973,000円)
合 計			121,737,000		

8. 設立 50 周年記念事業の実施概要

設立 50 周年記念実行委員会委員長 千田 洋一

一般社団法人日本トンネル技術協会は、令和 7 年度（2025 年度）に設立 50 周年を迎えることから、設立 50 周年記念実行委員会に幹事会及び 3 つの WG（催物企画等 WG、作品展示等 WG、映像・記念史等 WG）を設け、記念事業に関する検討を実施した。

① 実施目的

日本トンネル技術協会は、トンネル及び地下空間の建設並びにこれらの維持管理に関する調査研究を行い、地下利用技術の進歩向上を図ることによって、国土の保全と公共の福祉の増進に寄与することを目的に、1975 年（昭和 50 年）8 月に設立され、2025 年（令和 7 年）8 月をもって設立 50 周年を迎えることから、国民生活の安全向上、経済活動に不可欠なトンネル・地下空間に対する意識を高め、トンネル・地下空間や本会の活動の理解向上の一助とするため、記念事業を実施する。

② メインテーマ

設立 50 周年記念事業の実施に当たって、「社会を支え、未来へつなぐトンネル・地下空間」をメインテーマとした。

③ 実施計画

メインテーマのもとに、各種イベントを企画、実施する。

実施するイベントは、特別講演会、フォトコンテスト、トンネル利用のアイディアコンテスト、親子見学会、トンネルに関する技術展示会等の他、映像ライブラリーの整備、会誌記念号、JTA の 50 年のあゆみの発行等である。その概要は以下のとおり。

設立 50 周年記念事業の実施概要

区 分	実施イベント	実施概要
コンテストの実施	フォトコンテスト	・ 応募作品数 928（一般部門 882、関係者部門 46） ・ 表彰者 一般部門：最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名、会長賞 1 名、入賞 10 名、関係者部門：最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名、会長賞 1 名 ・ 表彰式、写真集作成、トンネルと地下空間展で展示
	トンネル利用のアイディアコンテスト	・ 小・中学生等を対象に実施 ・ 応募作品数 197 ・ 表彰者 最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名、努力賞 52 名 ・ 作品集作成、トンネルと地下空間展で作品を展示
記念講演会	特別講演会	・ 春山純一氏（JAXA）「月の地下のトンネル」 ・ 令和 7 年 6 月 9 日（月）15 時～ 都市センターホテル
	トンネル保守管理特別講演会	・ 維持管理の現状と最近の話題 ・ 令和 7 年 10 月 15 日（水）13～17 時 機械振興会館
	海外関連講演会	（国際委員会において企画中）

区 分	実施イベント	実施概要
展示会	トンネルと地下空間展	・令和7年8月2日（土）～8月8日（金） ・新宿駅西口広場イベントコーナー ・主な展示物 展示パネル（50周年記念）、VR（3D ゴーグル）を使った施工体験、トンネル技術の映像紹介（映写会）、シールドマシン等の模型展示
見学会	一般（親子）見学会	・2か所（横浜環状南線 釜利谷庄戸トンネル、新名神高速道路 宇治田原トンネル） ・7月、8月に実施
	関係者見学会	・2か所（青函トンネル、アクアトンネル） ・8月、10月に実施
記録の整理・保存	映像資料ライブラリー	・技術伝承の一助として、2015年以降の映像を収集 ・会員に貸出を予定
	トンネル技術協会 50年のあゆみ	・編纂の上、印刷・配布
	シールド・NATM 技術変遷史	・技術委員会傘下に小委員会を設置して編纂に着手 ・令和7～8年度の2か年程度の期間を見込む
	協会誌設立50周年記念号	・「トンネルと地下」令和7年8月号 ・主な掲載記事 祝辞、特別講演、座談会、主要プロジェクトの現況と課題、コンテストの結果等

④ 設立50周年記念事業の所要経費見込み

実施を予定する各種イベントの状況から、所要経費は2,000万円以内を見込む。

⑤ 「トンネルの日」の制定（総務委員会）

総務委員会において、本会の設立50周年を記念して「トンネルの日」を定め、トンネル・地下空間への理解や本会の認知等を促進することとした。適切な日について検討を行った結果、次のとおり決定した。

8月1日：日本トンネル技術協会の設立日

「トンネルの日」の広報を行うとともに、今後、事業委員会の下に、8月1日（またはその近傍の日）に、記念講演会、一般向けの見学会等のイベントを実施することとする。

9. 表彰（功績賞、功労賞）の選考概要

本会は、令和元年度に策定した「JTA ビジョン」を踏まえ、令和３年度に「表彰制度」を設け、トンネル技術の発展に特に顕著な功績があったと認められる会員等に「功績賞」を、また本会の発展に特別の功労のあった会員等に「功労賞」を授与している。

令和６年１１月１３日から令和７年１月３１日までの期間、令和７年度表彰の推薦を受け付けたところ、功績賞１名の推薦があった。なお、功労賞の推薦はなかった。

推薦内容に関して、本会理事会で慎重に選考を行った結果、功績賞１名の受賞者を決定した。

受賞者は、本会定時総会（令和７年６月９日（月）開催）において表彰する。

令和７年度受賞者

功績賞 １名

（敬称略）

受賞者名	功績概要
大島 洋志	長年の実務経験に基づき取得した山岳トンネル分野の地質工学的経験知をトンネル専門誌や書籍に公表するとともに、数多くのトンネル建設関連の技術委員会に参加して、難航するトンネルプロジェクトの円滑な完成に寄与することで、トンネル工学分野の発展に貢献した功績

功労賞 なし（応募なし）

10. 研究助成（研究助成部門、研究奨励部門）の選考概要

本会は、令和元年度に策定した「JTA ビジョン」を踏まえ、令和3年度に「研究助成制度」を設け、トンネル・地下空間の建設及び維持管理に資する技術開発又は研究に対して、研究助成部門と研究奨励部門(40歳未満の若手研究者対象)の2部門で研究助成を実施している。

研究助成部門の助成額は1件につき単年度100万円以下、研究奨励部門の助成額は1件につき単年度20万円以下で、助成対象者は本会の個人会員であって、大学、高等専門学校及びこれらの附属機関に属する研究者としている。

令和6年9月2日から同年11月29日までの期間、令和7年度に助成する研究・技術開発を募集したところ、新規・継続合わせて6件の応募があった。申請内容に関して、本会に設けた研究助成審査委員会（堀口知己委員長）で、①研究の新規性・独自性、②研究計画の妥当性、③トンネル等事業への貢献度、④研究の進捗状況（継続案件のみ）の3（又は4）項目の評価を行い、今般、6件全ての採択を決定した。

なお、研究計画が複数年にわたるものについては、毎年度、申請受付手続きを行い、再度審査するものとしている。

令和7年度助成研究

（敬称略）

部 門	助成研究テーマ	研究者	助成額
研究助成 部 門 5 件	膨潤性地山に起因するトンネルの変状メカニズムの 解明とその対策の構築 （継続：令和4～5、7年度）	崔 瑛 （横浜国立大学）	100万円
	掘削時の地山補強を目的とした補助工法の選定手法 に関する研究 （継続：令和5～7年度）	砂金 伸治 （東京都立大学）	100万円
	地下水水質を用いたトンネル前方の地質構造推定の 精度向上 （継続：令和6～7年度）	太田 岳洋 （山口大学）	100万円
	膨潤性岩盤モデルの開発と膨潤性地山トンネルの設 計・施工の合理化 （継続：令和6～7年度）	星 啓太郎 （東北大学）	100万円
	ロックボルトの材質と定着材を考慮した力学的特性 に関する研究 （新規：令和7～9年度）	河田 皓介 （東京都立大学）	100万円
研究奨励 部 門 1 件	トンネルの担い手確保・育成のための切羽観察 VR シ ステムの構築 （継続：令和6～8年度）	岡崎 泰幸 （広島工業大学）	20万円